

+ 輸血情報

【クロスエイトMでヒトパルボウイルスB19感染の可能性】

血液製剤、特に血液凝固因子製剤によるヒトパルボウイルスB19の感染が報告されております。

クロスエイトMについても現時点では感染の可能性があるので、お知らせいたします。

■ヒトパルボウイルスB19とは

ヒトパルボウイルスB19は、脂質膜を持たない極めて小さな(約20~26nm)ウイルスで、熱、酸、有機溶媒、界面活性剤等に対して抵抗性を示します。

小児に多い「リンゴ病(伝染性紅斑)」の原因ウイルスとして知られています。

■臨床症状

ヒトパルボウイルスB19感染症は、飛沫感染により伝染し、5~6年周期で流行があります。通常は無症候あるいは軽い感冒様症状を起こす程度です。しかし、慢性溶血性疾患、大量出血、免疫不全の患者では強度の貧血を呈することがあり、また妊婦に感染した場合には、死・流産、胎児水腫等を起こす可能性もあります。

■血液製剤による感染

輸血用血液製剤¹⁾、血液凝固因子製剤²⁻⁶⁾によりヒトパルボウイルスB19に感染することが知られています。

■クロスエイトMによる感染の可能性

現在行っているクロスエイトMのPUPs (Previously Untreated Patients) Studyでも、製剤から感染した可能性のある症例があります。

原料血漿へのウイルス混入を防ぐため献血時の問診を強化しておりますが、ウイルス保有者を完全に排除することは不可能です。また製造工程中でウイルスを完全に不活化・除去することも困難です。

なお、日本赤十字社では高濃度のヒトパルボウイルスB19を検出する検査法の開発を進めております。

■参考文献：

- 1) Zanella, A., et al. ; Transfusion-transmitted human parvovirus B19 infection in a thalassemic patient. *Transfusion*, 35, 769-772, 1995.
- 2) Morfini, M., et al. ; Hypoplastic anemia in a hemophiliac first infused with a solvent/detergent treated factor VIII concentrate : the role of human B19 parvovirus. *Am. J. Hematol.*, 39, 149-150, 1992.
- 3) Azzi, A.; et al. ; Human parvovirus B19 infection in hemophiliacs first infused with two high-purity, virally attenuated factor VIII concentrates. *Am. J. Hematol.*, 39, 228-230, 1992.
- 4) Mortimer, P.P., et al. ; Transmission of serum parvovirus-like virus by clotting-factor concentrates. *Lancet*, ii, 482-484, 1983.
- 5) Thynn ,T.Y., et al. ; Life-threatening human parvovirus B19 infection in immunocompetent haemophilia. *Lancet*, 345, 794-795, 1995.
- 6) 小室勝利；血液事業のR&Dに期待すること(品質管理の立場から). *血液事業*, 17, 71-72, 1994.

日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-31
TEL:03-5485-6607 FAX.03-5485-7620

■お問い合わせ